

https://farid.ps/articles/israel_propaganda_hasbara/ja.html

ナラティブの制御：現代のハスバラ、デジタルプロパガンダ、そしてイスラエル・パレスチナ紛争における知覚の心理学

現代の紛争において、情報はもはや戦争の背景ではない – それ自体が戦争である。画像、言葉、ハッシュタグ、アルゴリズムは今や爆弾や銃弾と同じ確実さで武器として機能する。戦場はガザ、西岸、または国連のホールだけではない – それはあなたの電話の画面、あなたのニュースフィード、そしてあなたの感情的な反射でもある。闘争は領土のためだけではなく、**真実、記憶、道徳的知覚**のためである。そしてこのアリーナで、イスラエルのプロパガンダシステム – ハスバラとして知られる – は世界で最も先進的で攻撃的なナラティブ操作の一つとして浮上した。

伝統的に「説明」と訳される **ハスバラ** は、公衆外交として自身を提示する：イスラエルの行動をグローバルコミュニティに「明確化」する努力である。しかし実践では、それは包括的で国家支援の心理的・デジタル影響操作として機能する。その目的は単に説得するのではなく、**物語を制御する** – 誰が被害者か加害者か、正当か犯罪的か、人間か使い捨てかとして見なされるか。

過去2年間、イスラエルのガザへの激化攻撃とグローバルなデジタルアクティビズムの台頭の中で、ハスバラは新たな段階に入った。プレスリリースや国営メディアに限定されなくなった今、それは **アルゴリズム、インフルエンサーネットワーク、ディスインフォメーションキャンペーン、企業執行** を通じて運営される。かつて民主化の場として想像された **X（旧Twitter）** や **TikTok** のようなプラットフォームは、苦しみの視認性 – および抵抗の正当性 – がアルゴリズム的抹消の対象となるデジタル戦場となった。

同時に、**ラリー・エリソン** のような強力な億万長者が、オラクルとスカイダンス/パラマウントを通じて TikTok と伝統メディアの両方に大きな影響力を持ち、上から下へのイデオロギー的適合を強制している。プロ・パレスチナの声は、国家検閲だけでなく **雇用主のポリシー、アルゴリズム的抑圧、心理的操縦** によってますます沈黙させられている。これらは世界を理解するために使用するプラットフォーム自体に埋め込まれている。

しかしこれらすべてにもかかわらず、真実は持続する。

目撃証言、デジタルアーカイブ、グローバル意識はハスバラの幻想に抵抗し、それを破壊し始めた。この作品の目標は、読者をその幻想を理解し挑戦するためのツールで **記録、暴露、装備** することである – それが現実そのものになる前に。

ハスバラの進化 – 冷戦外交からデジタル支配へ

「ハスバラ」(הסברה) はヘブライ語で文字通り「説明」を意味する。表面上、それは明確化や公衆外交を意味する – イスラエルの世界への「自己説明」の努力である。しかしハスバラは単なる説明ではない；それは**演劇的、先制的、操作的**である。それはパレスチナ占領の文脈でイスラエルに関するグローバルナラティブを制御するための調整されたプロパガンダフレームワークである。

伝統的な広報とは異なり、ハスバラは**軍事化され制度化**されており、安全保障国家に根ざし、プラットフォーム、言語、分野を越えて実践される。それは議論に勝つことではない – 議論が始まる前に**現実の条件を定義**することである。

起源：シオニスト擁護から国家プロパガンダへ

ハスバラの種は1948年のイスラエル建国以前に植えられた。20世紀初頭のシオニスト指導者たちは西洋世論を形成する重要性を認識した。ハイム・ワイズマンやテオドール・ヘルツルなどの人物は単なる外交官ではなく、**ナラティブ起業家**で、英國と米国のエリートをシオニズムが植民地主義ではなく現代的・文明化プロジェクトであると説得した。

イスラエル国家の設立後、ハスバラはより正式な役割を果たした。冷戦中、イスラエル当局は国家を敵対的なアラブ地域でのリベラル民主主義の前哨として枠づけ、アメリカの価値観とソビエト影響への西側恐怖と一致させた。

ハスバラの初期主要目標には：

- **ナクバの正当化** (1948年に70万人以上のパレスチナ人の強制移住)
- 1967年の西岸、ガザ、東エルサレム占領を「防衛戦争」として再ブランド化
- 1982年のレバノン戦争やインティファーダ鎮圧などの軍事行動からの批判の逸らし

これらの各時期で、ハスバラは**西洋メディア、外交的同盟、ユダヤ人ディアスポラ機関**に依存してイスラエルの出来事バージョンを増幅した。イスラエルは圧倒的な軍事力を持ちながら、小さく、包囲され、道徳的に優位として描かれた。

制度化：ハスバラ官僚機構の台頭

1970年代と80年代までに、ハスバラはイスラエル国家内で正式化された。**外務省、戦略問題省、IDF報道官ユニット**はそれぞれ国際世論形成に焦点を当てたプロパガンダ部門を開発した。

主要発展には：

- 外務省内の**ハスバラ部門**の設立
- イスラエル外交官と兵士のための「ナラティブ規律」トレーニングプログラム
- 米国メディアメッセージの調整のための**AIPAC**と関連ロビーの使用
- PR会社、シンクタンク、主要米国メディアとのパートナーシップ

これは単にイスラエルを良い光で描くことではなく、パレスチナ抵抗の非合法化、批判の反ユダヤ主義への再枠組み、西側首都での政治的意図決定への影響だった。

ハスバラ・マニュアル：プロパガンダの実践

2000年代までに、ハスバラは伝統外交を超えて **マスメディア影響とディスインフォメーション技術** に移行した。この時期の主要アーティファクトは「ハスバラ・マニュアル」で、インターネット初期にイスラエル擁護者の間で広く流通したガイドである。

マニュアルは以下の修辞戦略を概説：

- **ポイント獲得 vs 真実追求**：常に議論に勝つことを狙い、問題を説明しない
- **感情的訴求**：恐怖、罪悪感、トラウマを喚起（例：ホロコーストやテロへの絶え間ない言及）
- **リダイレクト**：イスラエルの行動に挑戦されたら、ハマス、イラン、または反ユダヤ主義に切り替える
- **信用失墜と非合法化**：メッセージではなくメッセンジャーを攻撃 – 特に批評家、ジャーナリスト、学術者を

これらの戦術は国家アクターに限定されない。今は **学生グループ、ディアスボラ組織、オンライン志願者** を通じて拡散され、グローバルなデジタルプロパガンダ軍を形成する。

ハスバラ 2.0：デジタル転換

真の変革は2010年代に起こり、2020年代に加速した。伝統メディアの影響力が低下しソーシャルメディアが支配する中、ハスバラは転換した。インフルエンサー・キャンペーン、AIモデレーション、アルゴリズム工学、リアルタイムデジタルディスインフォメーションに焦点を当てるようになった。

主要発展には：

- IDF報道官ユニットが空爆を英雄行為として再枠組みするウイルスTikTokを作成
- WhatsAppとTelegramで調整された市民「ハスバラ戦士」がプロ・パレスチナ投稿の大量報告
- イスラエル政府が暴力激化期に特にプロ・イスラエルコンテンツでプラットフォームを氾濫させる **数百万ドルのデジタルキャンペーン** を資金提供
- 2019年のイスラエル省入札が「非合法化キャンペーン」を対象とした秘密ソーシャルメディア操作に3百万NISを提供

これらの努力はアナリストが **ハスバラ 2.0** と呼ぶ頂点に達した – プラットフォーム時代に適応したプロパガンダ体制で、速度、ウイルス性、感情操作が事実や政策より重要。

プラットフォームとしてのプロパガンダ – ハスバラがX（旧Twitter）をどのように捕獲したか

2022年末にイーロン・マスクがTwitterを買収しXにリブランドした時、プラットフォームは新たなイデオロギー段階に入った。「言論の自由」の避難所としてマーケティングされたXは急速に党派的なものに進化した：**国家連動情報戦争の戦場**で、イスラエルのハスバラ装置がメッセージを増幅、異議を抑圧、イスラエル・パレスチナ紛争の公衆知覚をリアルタイムで形成するための肥沃な土壌を見つけた。

Twitterが長年バイアスとモデレーションのアシンメトリーの問題を抱えていた一方で、マスク後の時代は**国家隣接ナラティブ工学**の劇的なエスカレーションを示す - イスラエル政府、IDF、関連ネットワークがプラットフォーム変更、指導層の共感、アルゴリズム的不透明性を最大限活用して支配的視点を固める。

プラットフォームからプロキシへ：Xがハスバラ目標とどのように一致したか

2023年10月7日のハマス攻撃とその後のイスラエルのガザ襲撃直後、ハスバラ作戦はオーバードライブに入った。同時にXはこれらの努力と**構造的に一致**した：

アルゴリズムバイアス

- **プロ・イスラエルコンテンツが視認性で急増**、低エンゲージメントにもかかわらず膨張したリーチ。
- **プロ・パレスチナ投稿が埋もれ**、シャドウバンされ、「テロ支援」とフラグ付け - ジャーナリストや学者が投稿した場合でも。
- **#ガザ**などのトレンドトピックが、ガザの激しい爆撃と民間人死亡期にプラットフォームの視認性ツールから謎の消失。

イーロン・マスクの支持

- マスクが個人的にアカウントをブースト、ディスインフォメーションや極端に党派的なプロ・イスラエルコンテンツで知られる。
- イスラエル影響ネットワークに結びつく人物をプラットフォーム化、重要な軍事作戦中にIDFメッセージを繰り返す者を含む。
- 多くの場合、マスク自身がハスバラのトーキングポイントをエコー、イスラエル批判をセキュリティ脅威や「極端主義プロパガンダ」として再枠組み。

検閲を優遇するポリシー調整

- コンテキストを追加するための「コミュニティノート」機能はしばしば**プロ・パレスチナ声を弱体化させる武器**として使用。
- **大量停止**がガザのリアルタイム映像を投稿するジャーナリスト、アーティスト、生存者を標的。
- 異議声はしばしば「誤情報」とラベル付け、異議申し立てや説明なし。

これらの構造変化はユーザーが「**ハスバラフィード**」と呼ぶものを生み出した - 残虐紛争の一方だけが一貫して見え、他方への共感がアルゴリズム的に抑制された操作された現実版。

デジタル旅団とコンテンツ氾濫

Xでのハスバラの成功はアルゴリズムだけに依存しない。人間の介入 – しばしば調整された – が大きな役割を果たした。

デジタル旅団：

- ボランティアと有償ハスバラインフルエンサーがネットワークで **プロ・パレスチナアカウントの大量報告**。
- これらのネットワークが **コメントをスクリプトされたトーキングポイント**で氾濫、ハラスメントでスレッドを逸らし、ウイルス化後に修正困難なディスインフォメーションを植え付ける。

氾濫戦略：

- 注目イベント中（例：病院爆撃、国連決議）、Xがプロ・イスラエルインフォグラフィックス、AI生成コンテンツ、IDF兵をためらいがちな人道主義者として描く感情操作ビデオで **氾濫**。
- 目的は説得だけではない – **ボリューム制御**。純粋な飽和で批判投稿を溺れさせる。

この慣行は **国家パートナーシップ** で支援。イスラエル政府はソーシャルメディアプロパガンダへの投資を記録：

- 西側聴衆向け145百万ドルの公衆外交キャンペーン。
- 2019年入札がデジタル影響作戦に数百万シェケル提供。
- ネタニヤフのソーシャルメディアを「武器」として米世論形成に使用する公認計画。

ナラティブ枠組み：被害者性から道徳的正当化へ

Xのハスバラアンプリファイアへの変容は紛争の **ナラティブ枠組み** もシフト：

- イスラエルは軍事非対称性や引き起こした民間人犠牲に関わらず永遠の被害者として描かれる。
- パレスチナ人は一貫してテロと結びつき、言語と視覚的手がかりで非人間化 – 子供や病院について議論する場合でも。
- 構造的暴力、占領、アパルトヘイトは目に見えなくなり、各エスカレーションを自発的防衛行為として再枠組み。

これらの枠組みは：

- 爆撃中にウイルスコンテンツを投稿する **青チェックインフルエンサー**（しばしば有償）を通じて増幅。
- 感情的に説得力のある言語と画像を使い軍事行動支持を維持する **AI生成スレッド**。
- ジャーナリストやNGOをハマスに偽装結びつけて報告を信用失墜させる **ディスインフォメーションテクニック**。

モデレーションから操作へ：プラットフォーム中立性の死

Xはもはや「町の広場」ではない。それは **軍事化された情報システム** で、関与が工学化され、視認性が制御され、政治的異議がコードと強制で管理される。

これは危険な先例 – イスラエル・パレスチナ紛争だけでなく **グローバルな民主主義とデジタル権利** にも。戦争の一方が全スペクトラムアルゴリズム保護を享受 – 他方がデブースト、バン、中傷に直面 – の結果は議論ではない。それは **製造された合意** である。

TikTokとエリソン・ドクトリン – 影響、イデオロギー、プラットフォーム征服

2020年代初頭、**TikTok** はGen Zの最も強力な文化的・政治的プラットフォームとして浮上。グローバルで10億人以上のユーザー、米国だけで1億5千万人以上で、TikTokはグローバルナラティブが共有されるだけでなく **感じられる** 空間となった。戦争、蜂起、不正の時代に、それは視覚的証言の最前線として機能：速く、非フィルター、感情的に直接。

まさにこの生の力がTikTokを脅威にした – 政府、企業、ハスバラのような強力なナラティブ体制にとて。

当初、米国のTikTok監視は **データプライバシーと中国共産党影響の恐怖** に焦点、中国テック巨頭 **ByteDance** の所有のため。しかし2025年、その懸念は「解決」され、TikTokの米国運営の80%が **米国投資家コンソーシアム** に売却され、プロ・イスラエル億万長者 **ラリー・エリソン** が率いる **Oracle** がTikTokのアルゴリズムとデータインフラ 監督を主導。

しかし続いたのは中立性や市民的自由の回復ではなかった。

代わりに、**TikTok** はイデオロギー執行のもう一つの腕 となり、特に **イスラエル国家利益**、米国外交政策ナラティブ、億万長者の文化的影響と一致。

一つの帝国を他のに置き換えた買収

2025年9月、二党制圧力とトランプ時代執行命令の下、TikTokの米国運営は実質的に押収され米国テックエリートに渡された。ラリー・エリソンの **Oracle** がデータガバナンスとアルゴリズム監督を掌握 – 国家安全保障の鷺とビジネスメディアが祝賀した決定。

しかし中国国家影響をエリソンのイデオロギー帝国と交換で、米国はTikTokを「非政治化」しなかった – 単に **プラットフォームの忠誠をリダイレクト** しただけ。その忠誠は中立ではない。

エリソンは単なるビジネスマンではない。彼は：

- イスラエルとIDFの声高な支持者
- プロ・イスラエル政治ロビーと軍事プログラムの主要資金提供者
- 息子の **Paramount Global** 買収の背後の金融建築家で、**CBS**、**Showtime**、広範な米国メディアを含む

要するに、エリソンの影響は：

- ビッグテック (Oracle)
- ソーシャルメディア (Oracleインフラ経由のTikTok)
- 主流メディア (Paramount/CBS)
- 米国政治 (トランプ主要ドナー、マルコ・ルビオ他とのつながり)

彼は情報システムを形成するだけでなく、**所有**する。

エリソン・ドクトリン：企業文化としてのイデオロギー制御

2023年末ガザ戦争エスカレーション後、Oracleの内部報告が浮上。これらはエリソン影響下の**企業文化シフトの懸念**を明らかに、特にOracleがTikTok運営買収位置づけ時。

主要発展には：

- 幹部が企業文化に「イスラエル愛」を埋め込む要求
- イスラエル軍事行動への懸念を述べた従業員が**企業メンタルヘルスリソース**に紹介
- プロ・パレスチナ労働者が意見への**懲戒圧力**や報復に直面
- 2025年初頭のOracle従業員数十人の公開書簡が、企業とイスラエル軍事テック・検閲作戦の深化関係に抗議

これらの慣行はバイアスを反映するだけでなく、**権威主義的条件付け**を喚起：プロ・イスラエル世界観からの逸脱が不安定、混乱、無忠誠の症状である考え。

この冷たい環境はTikTok自体の変化に反映された。

TikTokの検閲：静か、標的的、効果的

OracleがTikTokのアルゴリズムとインフラ制御を取って以来、ユーザーはプロ・パレスチナ声に影響する抑圧戦術の範囲を報告：

視認性低下

- イスラエル空爆、民間人死亡、ガザ証言を文書化する投稿が買収前より**顕著に低いエンゲージメント**を受け。
- **#FreePalestine** や **#CeasefireNow** などのハッシュタグが断続的に絞られ、非検索可能に。
- 「グラフィック」または「誤解を招く」とフラグ付けされたビデオが**削除または制限** – 検証済みやジャーナリスト投稿でも。

アカウント標的的行動

- 著名パレスチナクリエイターとアクティビストが**シャドウバン**、アカウント停止、コンテンツ削除を無警告で報告。
- ガザニュース共有の検証アカウントが**リーチが劇的に低下**、特に活動爆撃期。

プロパガンダ推進

- ハスバラスタイルインフォグラフィックスとインフルエンサー解説を含むプロ・イスラエルコンテンツが **For You フィード** でより顕著に 特徴。
- イスラエル政府関連キャンペーンのスポンサー投稿が **米国聴衆に押し**、時には教育的または人道的枠組み。

この **コンテンツアシメントリー** はXで観察された類似ダイナミクスを反映 – しかし **若年ユーザー** 間のTikTokリーチが特に危険に。若いユーザー間TikTokリーチが特に危険。プラットフォームは **イデオロギーグルーミンググラウンド** となり、**選択的視認性** が正常、受容可能、「正しい」と見なされる道徳的境界を規定。

アルゴリズム的中立性からイデオロギー戦争へ

TikTokはかつて underrepresented 声 – パレスチナ人を含む – に聞かれる場を提供するプラットフォームとして見られた。それは：

- 爆撃の生映像の舞台
- 占領地からの個人的証言
- 主流ニュースバイアスを回避するウイルス連帶運動

しかし Oracle とエリソン下で、プラットフォームのイデオロギー連動がシフト。これは視認性だけではない – **価値コーディング** について：

- イスラエル兵は保護者として描かれる。
- パレスチナ人は明示的または暗黙的に脅威として描かれる。
- 苦しみはアルゴリズム的に一種類の悲しみを好むようキュレート。

これは **スケールでのナラティブ工学** – 「コンテンツモデレーション」と「ブランド安全」の名の下に実施。

エリソンのメディア帝国：ナラティブ壁の強化

TikTokの捕獲はエリソンの広範メディア統合戦略の一ノード。Skydance Mediaと **Paramount Global** 買収を通じて、エリソン家は今：

- CBS News
- Showtime
- Comedy Central
- Nickelodeon
- Paramount Pictures
- グローバルストリーミングプラットフォーム

を制御。OracleとTikTokと共に、エリソンの影響は子供向けプログラミングから企業データベース、ウイルスビデオプラットフォームまで **情報消費のほぼすべての主要メディア** をカバー。

彼の深い政治的つながりとイデオロギー的硬直性で、これはメディア所有だけではない – ナラティブ独占。戦争を衛生化、異議を規律、許容共感の境界を定義するために使用。

ハスバラの心理効果 – アルゴリズム、不安、公衆感情の形成

プロパガンダの力は言うことだけではなく、心に何をするかにある。

現代ハスバラ – 冷戦の遺物から遠く – は **高度に進化した心理影響システム**。もはや国営メディア制御やプレスリリースのねじれに依存しない。それは今 **アルゴリズム、インターフェースデザイン、報酬システム、社会的フィードバックループ** に生きる。

デジタル時代ハスバラは **説得** だけを目指さない – **条件付け** を目指す。公衆感情を形成、道徳的反射を型取り、異議を抑圧、合意知覚を工学。

感情のアルゴリズム工学

ソーシャルメディアプラットフォームはアルゴリズム「フィード」を通じてユーザーが見るものをキュレート – 関与を最大化 – しかこれらのアルゴリズムは情報が **報酬** または **不可視** されるかを決定。ハスバラ作戦はこれを **プロ・イスラエルコンテンツを增幅、プロ・パレスチナコンテンツをデブースト** または抑圧することで活用。

結果は **感情的条件付け** :

- **イスラエルナラティブを支持するコンテンツ** がいいね、リツイート、視聴を獲得 – ユーザーへの **ドーパミン打撃** を引き起こし行動を強化。
- **イスラエル批判コンテンツ**、正確さや緊急性に関わらず、しばしばエンゲージメント少なく – **苛立ち、自己疑念、最終撤退** に導く。

これは **報酬-罰ループ** を形成 :

- **関与 = 正しさ**
- **沈黙 = 恥**
- 時間とともに、ユーザーは無意識に **自己調整**、良好に機能するコンテンツに一致、**視認性を真実** と誤認。

エコーチェンバーと製造合意

XやTikTokのようなプラットフォームが政治ナラティブの一方をブーストすると、**デジタルエコーチェンバー** を生む – ユーザーが狭い意見範囲に繰り返し曝露、**普遍的合意** の幻想を強化。

これは深い心理的結果 :

- **アッシュの適合実験** によると、人間はグループ意見を採用傾向 – 個人的信念と衝突しても – 異議で孤立を感じる場合。
- これは **多元的無知** に導く : 私的見解が誤りや周辺的である信念、誰も共有しないように見えるため。

- イスラエル・パレスチナ文脈で、これは **パレスチナへの共感が危険または異常** と見なされるることを意味、私的にそれを感受するユーザー間でも。

結果は沈黙だけではない – **内部化歪曲**。ユーザーの増加数が **自身の道徳的本能を不信** し始める。

沈黙のスパイラル：孤立を通じた沈黙

ユーザーがプロ・パレスチナコンテンツが罰せられるのを見ると – 禁止、低リーチ、ハラスメント、職場結果により – 彼らは **自己検閲** を学ぶ。これは特に：

- 学術・職業的結果を恐れる学生
- デモネタイズを恐れるクリエイター
- Oracleのようなプロ・イスラエル企業従業員で、異議で同僚が **メンタルヘルスリソース** に紹介されたのを見た者

に真実。これは **沈黙のスパイラル理論** と一致：

人は社会的孤立や罰を恐れると意見表現が少なくなる。話す人が少ないほど、異議が稀という知覚が強まり – 沈黙を強化。

これは **ハスバラが作成を目指す環境** である。

異議のパソロジー化

近年、心理的強制はフィードを超え職場とコミュニティへ。2023–2025ガザ戦争中のOracle報告は深い懸念パターンを明らかに：

- イスラエル行動批判従業員が懸念の本質に取り組む代わりに **メンタルヘルスサポート** に紹介。
- 幹部が企业文化の一部として「イスラエル愛」を要求 – 異議を **感情的不安定** または **非合理** として枠組み。
- テック・メディア空間でプロ・パレスチナ見解が **パソロジー化**、イスラエル支持が **合理的、市民的、道徳的** として正常化。

この戦術は権威主義プレイブックから：道徳的反対を **精神的混乱** として再枠組み、抵抗を政治的視点ではなく **心理的逸脱** として扱う。

感情的疲労とバーンアウト

現代ハスバラの最も一般的な心理的影響は **感情的疲労** かもしれない：

- 残虐を文書化しようとするユーザー – 特にガザで – は **「虚空に叫ぶ」** 感覚を記述。
- 証拠にもかかわらず、投稿が無視または削除。
- 多くの人が絶望、不安、気にしないように見える同僚からの切断を記述。

これは：

- **デジタルバーンアウト**：絶え間ない感情労働によるアクティビズム撤退
- **道徳的解離**：生存メカニズムとしてのトラウマからの心理的距離
- **共感疲労**：過剰曝露と知覚無益さによる苦しみへの麻痺

に導く。結局、この **連帯の心理的浸食** はハスバラの最も効果的なツールの一つ。検閲だけではなく、**疲労** を通じて。

聴衆の幼児化

ハスバラのもう一つの鍵戦略は **単純化** – 複雑な地政学を感情操作トロープで枠組み：

- **イスラエル永遠の被害者として**
- **IDF世界の「最も道徳的軍隊」として**
- **パレスチナ人テロリスト、またはエージェンシーなしの受動的被害者として**

この感情枠組みは聴衆を幼児化：

- **批判的思考を阻害**
- **事実的ニュアンスより感情的忠誠を優先**
- **道徳的二元性** を育む – 善 vs 悪、私 vs 彼ら – コンテキスト、歴史、構造批判の余地なし

ユーザーは理解ではなく **正しい方向に感じる** よう訓練。感情スクリプトからの逸脱は社会的罰。

ハスバラと西側 – ロビイング、ローフェア、連帯の犯罪化

ハスバラは知覚形成で止まらない。その最終目標は知覚を **力** に変換 – 立法、軍事資金、貿易政策、法制度で **抵抗を罰、共犯を報酬**。

西側 – 特に米国、英国、ドイツ、フランスで – ハスバラは **政治的道具** に進化。ウイルスビデオやインフルエンサー・キャンペーンだけでなく、**ロビイング、ローフェア、学術抑圧、民間社会監視** を通じて展開。

ロビイングインフラ：西側ハスバラのエンジンルーム

西側でのハスバラの最強拡張はその **ロビインフラ**、特に米国で。組織如：

- **AIPAC** (アメリカイスラエル公的問題委員会)
- **ADL** (名誉毀損防止連盟)
- **StandWithUs**
- **イスラエル・アメリカ協議会**
- **多数の知名度低いPAC**

…が相互接続ネットワークを形成：

- 選挙に影響
- イスラエルへの米国外交政策を形成
- BDS運動抑圧立法を起草
- 反シオニズムをヘイトスピーチと等価の反ユダヤ定義を推進

これらのグループは擁護組織だけではない – **政策エンジニア** で、米政治インフラに深く埋め込まれ。

財務レバー：

- AIPAC単独で **1億ドル超** を2022・2024米選挙サイクルで支出、イスラエル無条件支持を誓う候補支援 – ガザ死者数増加中でも。
- 政治寄付が **イスラエル忠誠のリトマステスト** として使用。ラリー・エリソンは例えば、財政支援前にイスラエル立場で政治候補を **審査** したと報告。

候補規律：

- イスラエル政策批判候補 – **イルハン・オマル、ラシーダ・トレイブ、ジャマール・ボウマン** のように – 調整された中傷キャンペーン、ディスインフォ攻撃、数百万ハスバラ運動資金支援の予備選挑戦に直面。

この影響レベルは **米国外交政策がイスラエル支持でロック** を保証、世論、法違反、人権懸念に関わらず。

ローフェア：連帯を犯罪へ変える

西側でのハスバラの次のフロンティアは **ローフェア** – パレスチナ権利支持者を犯罪化・威嚇するための法的システム使用。

BDS犯罪化：

- 2025年までに **36米州** がイスラエルに対する **ボイコット、投資撤退、制裁 (BDS)** 活動参加の個人・企業を罰する法律・執行命令を可決。
- これらの法律、多くのイスラエルロビグループとのパートナーシップで書かれ、しばしば：
 - 請負業者が **反BDS誓約** に署名要求
 - プロ・パレスチナアクティビズムで学生・教員を罰
 - 「反イスラエル」と見なされる組織から公的資金保留

反ユダヤ主義の再定義：

- 西側政府が **IHRA反ユダヤ定義（国際ホロコースト記憶連合）** を採用増加、イスラエル批判を潜在的ヘイトクライムに含む。
- 批評家はこの **反ユダヤ非難を武器化** し、政治的言説・学術自由を沈黙させると主張。

- ドイツ・フランスで、この定義はすでにプロ・パレスチナ集会への警察鎮圧、禁止デモ、NGO調査に導く。

制度的検閲：

- **大学教授**、特に米国・英国で、パレスチナ歴史教育や脱植民地化運動支持表現でリスク増加。
- **カナリー・ミッション**のような組織がパレスチナ権利擁護学生・学者公的ブラックリスト維持 - 雇用主・移民官がしばしば使用。

連帯運動の監視と警察化

ローフェアと並行、ハスバラ運動政府・機関がプロ・パレスチナ組織化を監視・威嚇するための**対テロ言語**を採用増加。

キャンパス監視：

- **Students for Justice in Palestine (SJP)** 大学支部が寄付者・ロビグループ圧力下で監視、潜入、停止。
- キャンパスアクティビストが**急進派またはセキュリティ脅威**としてブランド、特にガザ・西岸暴力激化期後。

NGO威嚇：

- 援助グループ、人権監視者、UN機関さえイスラエル乱用文書化で「テロ支援」容疑。
- **IDFとイスラエル外務省**が人道労働者・報告者を標的とした中傷キャンペーンに関連 - 特にガザ・エルサレムで活動する者。

渡航禁止とビザ取り消し：

- パレスチナ擁護者、学術者、ジャーナリストが「極端主義」または「テロ同情」の曖昧容疑下で西側国入国拒否、国境フラグ、講演禁止。

要するに、**アクティビズム自体が脅威として再定義** - 公衆安全を脅かすからではなく、ナラティブ制御を脅かすから。

文化的戦争：パレスチナ正当性の抹消

国家支援連帯抑圧はパレスチナ正当性を完全に抹消する**広範文化的プロジェクト**で強化。

学術抑圧：

- 入植者植民地主義、アパルトヘイト、先住民抵抗コースがパレスチナを含む場合資金削減・政治標的。
- 会議キャンセル、スピーカー・デプラットフォーム、学術出版検閲がハスバラ運動資金者圧力下。

メディア衛生化：

- 西側メディア機関が継続：
 - イスラエル攻撃を「自衛」として枠組み
 - 占領、民族浄化、アパルトヘイトなどの用語回避
 - パレスチナ学者よりハスバラ「専門家」をプラットフォーム
- この枠組みに挑戦するジャーナリストが叱責、任務除去、オンライン嫌がらせキャンペーンに直面。

文化的ブラックリスト：

- パレスチナ支持表現のアーティスト、映画製作者、ミュージシャンが招待取り消し、ブラックリスト、罰 – 特に米国・英国フェスティバル回路で。
- 主要文化的資金者がしばしば「反BDS」間接遵守を要求、資金を政治的沈黙に結びつける。

抵抗と暴露 – ハスバラ機械の破壊

ハスバラは制御で繁栄：メディア、メッセージ、知覚。自身の現実版で情報エコシステムを氾濫させ、ローフェア、検閲、心理強制で競合ナラティブを沈黙。

しかし最も洗練されたプロパガンダシステムにも限界 – と亀裂 – がある。

西側機関・デジタルプラットフォームでのハスバラ支配にもかかわらず、グローバル反ナラティブが浮上。分散、デジタルネイティブ、道徳基盤、しばしば機関力のない者 – ジャーナリスト、アクティビスト、アーティスト、生存者、技術者 – が抹消下での真実言説にコミット。

証言の力：抵抗としてのジャーナリズム

ハスバラへの抵抗の最強形態の一つは証言行為 – 特にリアルタイムで。

市民ジャーナリズム：

- 2023-2025ガザ戦争で、世界の知は主流アウトレットからではなく、パレスチナ人による直接ビデオ映像からソーシャルメディア共有。
- これらの生証言 – 悲しむ母親、爆撃病院、負傷児童 – 衛生化ナラティブを切り裂き、数百万人に到達、しばしば検閲前に。

調査報道：

- +972 Magazine、The Intercept、Middle East Eye、Electronic Intifadaなどのアウトレットが継続文書化：
 - イスラエル軍ディスインフォキャンペーン

- パレスチナ人に対する監視技術
- 武器販売・検閲での西側共犯
- SubstackやPatreonのようなプラットフォームの独立ジャーナリストが編集制限を回避、他で検閲された批判報告を出版。

アーカイブアクティビズム：

- **Forensic Architecture** や **Visualizing Palestine** のような集団がデータ、マッピング、OSINT（オープンソースインテリジェンス）を使い、イスラエル戦争犯罪、土地収用、アパルトヘイド政策の**反駁不能・文書化記録**を作成 – 国際法的提出・人権報告で使用。

テック主権：プラットフォームを超えた構築

X、TikTok、Instagramのような主流プラットフォームが深く侵害されたことを認識、多くの技術者・コミュニティが**分散・倫理的代替**に転換。最も注目は **Mastodon** と **UpScrolled**。

Mastodon：分散マイクロブログ

Mastodonは **Fediverse** の一部 – 分散・ユーザー制御ソーシャルプラットフォームのネットワーク。Xとは異なり、Mastodonは**億万長者所有**でなく、広告なし、アルゴリズム的にコンテンツキュレートなし。

- **ローカルモデレーション**がプロ・パレスチナコンテンツがアルゴリズム的に埋もれ・禁止される可能性を低減。
- 多くのMastodonインスタンスが明示的に**反植民地、反アパルトヘイト、親正義**フレームを支持。
- Xでデプラットフォームされたジャーナリスト・組織者が**Mastodonで存在再確立**、抵抗のアーカイブ・增幅のための安全ハブとして使用。

Mastodonは完璧解決ではない – 小規模ユーザー基盤・限定的リーチ – が、企業捕獲・アルゴリズムバイアスに抵抗する**デジタル連帯インフラ**モデルを表す。

UpScrolled：人間中心ソーシャルニュース

UpScrolled は伝統ニュースフィードアプリの成長代替、強調：

- **アルゴリズム透明性**
- **コミュニティ駆動コンテンツキュレーション**
- **メンタルヘルス意識デザイン**

エンゲージメント最大化アルゴリズムの代わりに、UpScrolledはユーザーが**見るものを選択、信頼キュレーターをフォロー**を可能、ブランドやインフルエンサーではなく。

ハスバラ文脈で：

- UpScrolledは**飽和戦術**とコンテンツ氾濫に免疫プラットフォームを提供。
- **メディア教育者・アクティビスト**が他プラットフォームのコンテンツブラックアウト中に非フィルター更新共有に使用。
- **意図的情報消費**焦点が**ニュアンス、歴史、倫理的証言**の空間を作成。

まだ出現中だが、UpScrolledは**デジタル抵抗のエース**を表す – フィードが強制ではなく反射の空間に。

集団記憶プロジェクト

ハスバラは歴史抹消に依存：**ナクバ**、過去虐殺、数十年追放。応答として、新世代クリエイターがパレスチナ経験を保存・デジタルコモンズに記憶を再記入する**対抗歴史**を構築。

デジタル記念碑とアート：

- アーティスト・コーダーが**破壊村インタラクティブマップ**、ガザ死者仮想記念碑、グローバル帝国歴史に結びつく植民地暴力アーカイブを作成。
- **Decolonize Palestine**や**Palestinian Archive**のようなプロジェクトが単純化・歴史健忘に抵抗するテキスト、画像、口述歴史をキュレート。

コミュニティ教育：

- 草の根教育者がティーチイン、読書グループ、オンラインコースを開催、**歴史文脈奪還**と**プロパガンダナラティブ挑戦**。
- Zine集団・デジタルライブラリが機関外**政治再教育**の非公式だが強力ツールとして出現。

法的・制度的反撃

侵害システム内でも、ハスバラは成長抵抗に直面：

人権法的行動：

- **Al-Haq**、**Adalah**、**Defense for Children International-Palestine**のようなグループがハスバラ歪曲を**国際裁判手続き**で証拠使用、ジェノサイド・アパルトヘイド事件含む。

大学組織化：

- 学生がパレスチナ連帯禁止に抗議、占拠、訴訟で挑戦継続。
- 法的連合が米国裁判所で**反BDS法**を成功裏に挑戦、憲法言論自由保護違反と主張。

内部告発者暴露：

- ソーシャルメディア企業・NGO元従業員が今**内部文書リーク**、アルゴリズム調整・コンテンツモデレーションポリシーがイスラエルロビ圧力調整で作成されたことを明らかに。

グローバル連帯：闘争再接続

おそらく最も強力に、ハスバラへのグローバル抵抗は **パレスチナを他の解放運動に接続**：

- 先住民コミュニティが **入植者植民地主義** の共有パターン認識
- 黒人解放運動が **警察軍事化** の共有論理命名
- 南アフリカ反アパルトヘイト退役軍人がイスラエルが元抑圧者のプレイブック複製を叫ぶ

この **交差連帯** はハスバラがパレスチナ抵抗を孤立・ステイグマ化することを難しくする。パレスチナを紛争の独自ケースではなく、**帝国、監視、不正義に対するグローバル闘争の焦点** として再配置。

見えざるものはない - 真実、記憶、ナラティブ独占の崩壊

数十年間、イスラエルのハスバラ機械は顕著な成功で運営。厳密管理イメージを投影：包囲下の民主国家、自衛行動の道徳軍、理性的憎悪に苦しむ西側同盟。このナラティブは現実と並存せず – それを置き換え、教科書、見出し、政策、感情反射に浸透。

しかしナラティブはレジームのように崩壊可能。

そして過去2年で、不可逆なことが起こった。

PR、インフルエンサーキャンペーン、アルゴリズム操作、法的抑圧、制度的捕獲に数十億支出にもかかわらず、**真実が突破**。許可されたからではなく、**亀裂を通じ強制**、生存者運ばれ、証人文書化、普通人のネットワークが目を逸らさず増幅。

ガザ、西岸、エルサレムで見たもの – 内部告発者、デジタル調査者、歴史家、子供、詩人から学んだもの – **見えざるものはない**。

それは言説を変えた。

そして **私たち** を変えた。

ナラティブ独占の崩壊

ハスバラはかつて西側支配言説にほぼ完全制御。議論に勝つだけでなく、**議論可能なものを設定**。

しかしその独占は崩壊。

- **ソーシャルメディアがゲートキーピング構造を破壊**、イスラエルが買収・モデレーション圧力で制御再主張を急いでも。
- **市民ジャーナリズムが生の現実でタイムライン氾濫**、「防衛」に覆われた戦争犯罪から目を逸らすのを難しく。
- **パレスチナ歴史家、アーティスト、アクティビスト** がグローバル言説で正当位置取り、について話されるのを拒否に話される。

はい、XやTikTokのようなプラットフォームはその亀裂を抑圧するために再利用された – が支配ナラティブへの損傷は完了。ハスバラはまだ歪曲可能。しかし **抹消** できず。

グローバル道徳的再調整

多くの人にとって、過去2年は道徳的覚醒として機能：

- かつて複雑と枠づけられたものが今植民地的と理解。
- かつて「紛争」と見なされたものが今アパルトヘイトと理解。
- かつて防衛と描かれたものが今支配と認識。

ライブストリームで死ぬ子供、冷血殺害ジャーナリスト、瓦礫に変わった病院を見 – 言い訳がリアルタイムで崩壊。

国境を越え人々が立ち上がり、パレスチナを **人種差別、監視、軍事主義、国家暴力** に対するグローバル闘争に接続。

これは一過性瞬間ではない。それは **道徳的再調整** – ハスバラはその逆転に十分強力アルゴリズムなし。

抵抗としての記憶

ハスバラの核心はシンプル目標：**抹消**。

- ナクバの抹消
- 植民地暴力の抹消
- パレスチナ人性の抹消
- 見たものを思い出し命名する勇気ある者の抹消

したがって解毒剤 – 最激進的行為 – は **思い出す**。

アーカイブ。引用。証言。教える。人気ない時でも話す。特に人気ない時。

記憶は受動的ではない。それは武器。買えず、埋められず、存在からブランドできないもの。

先の仕事：ナラティブ抵抗から構造変化へ

ハスバラ暴露は第一歩のみ。

真の任務は：

- 将来世代が無知で育たないよう **教育の脱植民地化**
- 戦争プロパガンダの共犯となった企業・メディア・テック独占に **挑戦**
- PRで覆われた犯罪への **説明責任要求**
- 修辞的にだけでなく物質的に **パレスチナ解放支援**

今見る真実だけでなく、**それらの真実が私たちに課す責任** を自問せねば。

見られたものは見えざるものではない

後戻りはない。

画像はグローバル意識タイムラインに焼き付けられた。死者の名はフィード、詩、抗議、政策に生きる。歴史は抵抗なしにリアルタイム再記述不能。

ナラティブ独占崩壊はメディア物語だけではない。それは **住む準備の種類の世界** とその明確視覚への準備 – その明確さが快適さをコストに – の物語。

明確に見られたら、見えざることはできない。

聞かれたら、聾を装えない。

学んだら、無知に戻れない。

参考文献 & 追加読書

書籍と学術ソース

- Baroud, Ramzy. **The Last Earth: A Palestinian Story**. Pluto Press, 2018.
- Pappé, Ilan. **The Ethnic Cleansing of Palestine**. Oneworld Publications, 2006.
- Khalidi, Rashid. **The Hundred Years' War on Palestine**. Metropolitan Books, 2020.
- Erakat, Noura. **Justice for Some: Law and the Question of Palestine**. Stanford University Press, 2019.
- Herman, Edward S., and Noam Chomsky. **Manufacturing Consent: The Political Economy of the Mass Media**. Pantheon, 1988.
- Fuchs, Christian. **Social Media: A Critical Introduction**. Sage Publications, 2021.
- Morozov, Evgeny. **The Net Delusion: The Dark Side of Internet Freedom**. PublicAffairs, 2011.

ジャーナリズムと調査報道

- +972 Magazine - www.972mag.com イスラエル軍事政策、ハスバラ、デジタル監視、占領への詳細調査。
- **The Intercept** - www.theintercept.com 米国共犯、ロビー影響、テックプラットフォーム操作への調査。
- **Middle East Eye** - www.middleeasteye.net 地域全体の現場報道とメディア分析。
- **Electronic Intifada** - www.electronicintifada.net 独立パレスチナジャーナリズムがディスインフォと権利侵害を暴露。
- **The Guardian**: 「TikTokがガザ爆撃中にパレスチナコンテンツを抑圧、クリエイターら語る。」 (2023)
- **Wired**: 「Xは今イスラエル・パレスチナ情報戦争の武器。」 (2024)
- **The New York Times**: 「Oracle拡大でラリー・エリソンのワシントン影響力成長。」 (2025)

- **Haaretz**：「イスラエル外務省がデジタルプロパガンダキャンペーンを資金提供する方法。」(2023)

公式文書とリーク

- **2019イスラエル戦略問題省入札** 秘密デジタルキャンペーン用：~3百万NIS予算
- **IHRA反ユダヤ定義** (グローバル採用・挑戦) : www.holocaustremembrance.com
- **AIPAC 2024ロビー開示** : OpenSecrets.org
- **Twitter/Xコミュニティノートガイドライン** とマスク声明 (Internet ArchiveとTech Policy Center経由アーカイブ)
- **Oracle従業員公開書簡**、プロ・イスラエル企業文化への内部抗議 (2025 TechLeaks経由リーク)

プラットフォーム研究 & テック分析

- **Forensic Architecture** : www.forensic-architecture.org イスラエル戦争犯罪とナラティブ抑圧へのマルチメディア調査。
- **Visualizing Palestine** : www.visualizingpalestine.org ハスバラ枠組みに挑戦するインフォグラフィックスとデータ駆動ナラティブ。
- **AlgorithmWatch** : www.algorithmwatch.org コンテンツモデレーションとアルゴリズム増幅の政治バイアス研究。
- **Mastodonドキュメンテーション** : docs.joinmastodon.org 分散モデレーションが抵抗メディアを支援する方法理解のため。
- **UpScrolled (Beta)** : www.upscrolled.org 倫理的ソーシャルメディアデザインと脱植民地キュレーション実験の初期プラットフォーム。

法的・人権リソース

- **Al-Haq** : www.alhaq.org - パレスチナ人権法的NGO
- **Adalah** : www.adalah.org - イスラエル・アラブ少数派権利法的センター
- **Defense for Children International – Palestine** : www.dci-palestine.org
- **Human Rights Watch** : イスラエルアパルトヘイド慣行報告 (2021–2025)
- **Amnesty International** : 「イスラエルのパレスチナ人に対するアパルトヘイド」(2022)

アクティビスト・教育リソース

- **Decolonize Palestine** : www.decolonizepalestine.com ハスバラ、BDS、ナクバ否定などのキーイシューへのオープンソース、引用豊富ブレークダウン。
- **Jewish Voice for Peace** : www.jewishvoiceforpeace.org 米国政策・イスラエルアパルトヘイドに挑戦する主要反シオニストユダヤ組織。
- **BDS運動公式サイト** : www.bdsmovement.net ボイコット擁護のリソース、キャンペーンツールキット、法更新。

- **Palestine Legal** : www.palestinelegal.org アクティビスト・学生権利擁護の米国ベース法的支援グループ。

追加読書リストとキュレートアーカイブ

- 「**Reading Palestine**」 Columbia Students for Justice in Palestineシルバス (2024)
- 「**Digital Apartheid: Algorithmic Bias and Israel on a Reader**」 (TechSolidarity, 2025)
- 「**Platform Censorship and Political Bias**」 – MIT Media Lab Journal (2025春)

アーカイブ・長期研究用

- **Internet Archive / Wayback Machine** – 削除・検閲素材アクセス用
- **Palestinian Digital Archive** : www.palarchive.org
- **Nakba Map Project** : www.nakbamap.com
- **Israel-Palestine Timeline** (IfAmericansKnew.org) : www.ifamericansknew.org